

滋賀県におけるDX（デジタルトランス フォーメーション）推進に関する方針（案） 概要版

令和3年(2021年)3月
滋賀県デジタル社会推進本部

1 方針策定の背景

新型コロナウイルス感染症の流行による「新たな日常」は、ICTが県民生活や経済活動の維持に必要不可欠な技術であることを改めて認識させる契機となり、行政をはじめ、これまでデジタル化が進まなかった領域においてもデジタル化の遅れを取り戻す好機となっています。

デジタル化・リモート化を最大限に活用することにより、個人・産業・社会といったあらゆるレベルにおいて変革が生まれ、新たな価値創造へとつながっていくことが求められています。

こうした状況を踏まえ、本県におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するため、「滋賀県におけるDX推進に関する方針」を策定します。

2 方針の趣旨

DXの推進に当たっては、デジタル技術を県民の暮らしをより豊かにする新たな価値創造につなげていくため、「暮らしのDX」「行政のDX」「産業のDX」の各分野における「新たな価値創造に向けたビジョン」と、当該ビジョンの実現のために、今後3年間で集中的に取り組むべき具体的な「取組テーマ」を整理し、DX推進に関する方針として取りまとめました。

今後は、本方針を踏まえ、滋賀県ICT推進戦略を早期に改定し、県民の豊かな暮らしの実現に向けて、様々な主体と連携して取り組んでいくこととします。

また、計画的に行政のデジタル化を推進するとともに、産業・社会基盤としてのデジタルインフラを浸透させることで、県民の暮らしを快適で豊かにする「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」の実現を目指します。

滋賀県におけるDX推進に関する方針（案）

暮らしのDX

【生活】

○ 県民の暮らしのあらゆる領域において、すべての県民がデジタル技術を活用して、健康で快適な暮らしと、環境に配慮した豊かな生活を実感できる「滋賀」を目指す

- ・新しい体験価値の提供
- ・『CO₂ネットゼロへの挑戦』をはじめとする「適切な環境への関わり」の創出
- ・多職種でのデータ連携による医療・介護サービスの提供
- ・ヘルステックによる健康寿命の延伸
- ・公共交通の利便性の向上
- ・新しい学びの創出

【安全・安心】

○ 防災、防犯および交通安全の分野でデジタル技術の活用とデータ利活用を推進し、安全・安心な「滋賀」を目指す

- ・一人ひとりに合わせた安全・安心情報の提供
- ・データを活用した新しい交通安全環境の提供
- ・デジタル技術による防災力・減災力の向上

【教育】

○ これまでの集団での学びの良さを活かしつつ、デジタル技術を活用した教育を推進し、Society5.0時代に対応した資質や能力を備えた人材の育成を目指す

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現
- ・学校と産業界との連携によるDX人材の育成

【誰もが利用できる環境の整備】

○ セキュリティ対策やデジタルデバイド対策など、デジタル社会の推進に不可欠な利用環境の整備を行い、誰もが安心・快適、そして豊かな暮らしを楽しめる、「社会全体のデジタルトランスフォーメーション」の実現を目指す

行政のDX

【デジタルファースト】

○ 県民本位のデジタルファーストを実現し、時間や場所を問わず、ワンストップで、行政サービスを受容できることを目指す

- ・持ち運べる行政の実現
- ・利用者本位のスマート申請の実現
- ・より伝わる情報提供の実現

【デジタルシフト】

○ 行政そのものがデジタルシフトにより変革し、効率化により、限られた人材を有効に活用し、質の高い県民サービスの提供を目指す

- ・働き方改革の実現
- ・環境保全を「支える」体制の構築
- ・より効率的で確実な事務の実現

【EBPM】

○ データの利活用を積極的に進めることで、EBPMを推進し、暗黙知の形式知化、過去解析から将来予測への移行、部分最適から全体最適への転換を目指す

- ・県民との対話と可視化による県政の実現と効果的な広報の追求
- ・データヘルス計画の推進による医療費の適正化を実現
- ・データ活用による観光の振興
- ・琵琶湖の生産力を最大活用する漁業の推進

【スマート自治体】

○ 「スマート自治体滋賀モデル」を推進し、市町とともにデジタル化を推進し、県全体のデジタル・ガバメントの実現を目指す

- ・ワンストップ・シームレスな行政手続窓口の提供
- ・コミュニケーションのデジタル化による更なる自治体間連携の実現
- ・データ利活用の多分野における展開

産業のDX

【産業・企業】

○ 県内産業における最先端のデジタル技術の活用やデータ利活用を前提としたデジタルシフトおよびDX人材育成を積極的に支援する

- ・「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」の構築
- ・新たなビジネスの創出
- ・デジタル技術による社会的課題の解決
- ・県内企業のDX推進を担う人材の育成
- ・安全で魅力的な建設現場の実現
- ・データ活用による観光の振興

【農林畜水産業】

○ スマート農業などデジタル技術を活用して、担い手が不足する分野における生産性や品質の向上、産地強化を推進し、持続的で魅力ある農林畜水産業の実現を目指す

- ・スマート農業による持続可能な農業の実現
- ・ICT技術による森林資源の循環利用の推進
- ・畜産分野における担い手不足の解消と生産性の向上
- ・琵琶湖漁業のICT化による漁労の効率化と技術継承

- A I Artificial Intelligenceの略。人工知能。
- D X Digital Transformationの略。デジタル技術により、生活やビジネスモデルに変化を起こし、豊かで快適な生活を実現していくこと。
- E B P M Evidence Based Policy Makingの略。証拠に基づく政策立案。
- I C T Information and Communication Technologyの略。情報通信技術。
- I o T Internet of Thingsの略。家電、自動車、ロボット、施設などあらゆるモノがインターネットにつながり、情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すコンセプト。
- Society5.0 日本が、第5期科学技術基本計画（2016年度～2021年度）で提唱。「狩猟社会」「農耕社会」「工業社会」「情報社会」に続く、人類史上5番目の新しい社会として名付けられた。